

令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	井原市 県主地区 (県の里まちづくり推進協議会)	代表者	
-----	-----------------------------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

岡山県西南部・井原市南部に位置し、笠岡市に隣接した、世帯数525世帯・人口1154人・高齢化率40.7%の農業(稲作)を主体とした地域です。農家は兼業が多く、少子高齢化に伴い将来の担い手が少なくなっているのが現状です。数十年前までは、山間部の畑でたばこやさつま芋などが生産されていましたが、山林と化して見る影もありません。このため、まちづくり組織で農業について考える機会を設け、現在は「さつま芋」を栽培して焼酎造りなどを行っていますが、芋の栽培販売だけに留まり、6次化に向けた取り組みが足踏みしています。まちづくり組織でのその他の活動としては、「高齢者等の生活支援」や交流人口拡大のための「かかしコンテスト」などを行っています。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください)

<input type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input type="checkbox"/> 7. 福祉(見守り・移動支援等) <input type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input type="checkbox"/> 10. その他(1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的にご記入ください。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>現状を把握し、活動の問題点を洗い出し、これからの活動の指針を共に創ってほしい。 欲を言えば、 県主(あがためし)と言えば、さつま芋の栽培地として、誰もが認める生産地にしたい。この中で、耕作放棄地の解消を図りたい。</p> </div>
--	---

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

現在、さつま芋を栽培して焼酎造り(醸造は新見市の三光正宗に委託)を行っていますが、これは耕作放棄地を少しでも無くすことが目的で始めたことで、願わくば6次化を目指して耕作規模を拡大し、一大生産地になることが夢です。これまで芋チップスを試作してイベントで販売をしたこともあります。将来、さつま芋の生産地として、耕作放棄地の解消に向けた動きが活発になればと願っています。一番の課題は販売ルートの確保が挙げられます。焼酎用に栽培したさつま芋が過剰生産になり、苦慮したこともあります。大学との関わりとしては、どのようにしたら販売ルート(全国展開)を確保できるのか、耕作放棄地の活用(他の作物でも)にあたっての問題点、6次化に向けた課題などについて、私たちと共に考えていただきたいと思っております。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	井原市	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

あがためし
井原市「県主地区」の取組概要

地域の概要

- 人口 1,176人
- 高齢化率 40.6%
- 集落数 36集落
(R6.1.1)



最優秀賞



取組の経過

平成18年から協働のまちづくりの取組について地域内で話し合い、アンケート調査を行ったうえで、平成24年5月に本会が設立されました。

本会は、県主地域住民が自ら郷土の将来像を考え、その実現に向けて行動するとともに、協働のまちづくりを推進する中で地域が抱える課題を知恵やエネルギーを結集して克服し、誰もが地域への愛着と誇りを持って、安全で安心して、明るく暮らせる活力ある持続可能な地域づくりと、住民自治の振興に寄与することを目的としています。

推進組織

県の里まちづくり推進協議会

地域の特徴

井原市南部に位置して笠岡市に隣接し、農業を主体とする兼業農家と井原市内や福山市への勤務者が多い地域です。鎌倉時代、承久の変に敗れた後鳥羽上皇の御霊をお慰めするために踊り続けてこられた郷土芸能「鳥羽踊り」の保存活動や江戸時代（嘉永5年～）に、困窮する村人を救うために行われた大谷山開墾（162町歩）など、農業を主産業とした古い歴史を持つ地域です。

代表的な取組

耕作放棄地を活用してさつま芋を栽培し、焼酎「里の夢」を造ったり、野菜の苗を栽培して家庭菜園を普及して、少しでも耕作放棄地解消の意識付けになればと活動を行っています。

ふるさとの原風景である「かかし」を題材に継続して、「かかしコンテスト」を開催し、交流人口増加に努めており、年々来訪者が増えて知名度向上に繋がっています。

また、郷土芸能「鳥羽踊り」の保存活動の一環として、子ども伝承教室を継続して開催し、子どもたちのふるさとへの愛着心（非認知能力）を育むよう努めています。

その他、高齢者や一人暮らし世帯が日常生活を送る上で困難な作業を地域住民が肩代わりする「ふるさと便利屋さん事業」の取組なども行っています。



令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	高梁市 有漢町	代表者	
-----	---------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

有漢地域では、少子高齢化が進んでおり、高齢化率も46.6%となっている。しかし、地域では移住・定住対策に力を入れており、本年度からは「保育園留学」も行っている。令和7年度から新たに義務教育学校の開校も予定されており、教育の発展、教育力の向上を目指していく必要がある。また、廃校となる有漢東小学校の利活用についても検討して行かなければいけない。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください)

<input type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input checked="" type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input checked="" type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input type="checkbox"/> 7. 福祉（見守り・移動支援等） <input type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input type="checkbox"/> 10. その他（1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的にご記入ください。） <p style="text-align: center;">例：地域の現状や課題の把握から始めたい。</p>
--	---

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

・令和7年4月に義務教育学校の開校が予定されており、特色ある教育、学力向上の取組を行うための指導、助言。
 ・廃校となる有漢東小学校の利活用への提言。
 ・「生涯学習センター」や「みちくさ※」を利用したの放課後や休日の学びの場の実施について。
 ・町内には植林は行ったものの、その後手が付けられていない山林が多く存在する。枝打ちや間伐等の実施。
 ・地域住民の負担にならずに人が呼び込めるようなイベント開催へ提言。
 ・保育園留学で来られた方への親及び親子で楽しめるメニュー設定。
 ・町内にある観光地や史跡、農業体験等を活用したのツーリズムの作成。

※カフェ&コワーキングスペース

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	高梁市	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

うかんちょう 高梁市「有漢町」の取組概要

地域の概要

- 人口 1,880人
- 高齢化率 46.6%
- 集落数 33集落
(R6.1.1)



取組の経過

高梁市有漢町では、平成20年8月に地域住民が主体的にまちの活性化に取り組んで行けるよう「NPO法人夢風車うかん」を設立しました。

当初は、うかん常山公園を中心としたイベント活動が主体でありましたが、平成27年度からは有漢地域まちづくり協議会から移住定住対策を受託し、市とも連携し、空き家バンク登録、訪問案内等を行っています。

平成29年度には「風を集める会」を設立し、移住者支援と地域住民との交流を図っています。

令和3年度からは、「風をおこすまち有漢お試し暮らし住宅」の運営も行っており、その内の1棟は都市圏などの未就学児童等のいる家庭が、2週間程度、市内の保育園に子どもを通わせながら、いなか暮らしが体験できる保育園留学用の宿泊施設としても活用しています。

推進組織

NPO法人夢風車うかん

地域の特徴

現在まで取り組んできた活動内容の検証を行い、人口減少対策、地域の活性化等について模索して行きます。

代表的な取組

○ウカン・ザ・フェスティバル

5月には「紙ひこうき大会」、2月には「バレンタイン・キャンドルナイト」などの交流イベントを開催しています。

○移住定住対策事業

町内の空き家、空き農地の情報を収集し、空き家バンク登録、訪問案内等を行っています。

○お試し住宅事業

元市営住宅2戸を「風をおこすまち有漢お試し暮らし住宅」として運営しており、有漢への移住希望者の方へ貸出しを行っています。

○保育園留学事業

県内唯一の保育園留学の受入れを行っており、体験者へのサポート、住宅整備等を行っています。



令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	新見市 下熊谷 (下熊谷はぐくむ会)	代表者	
-----	-----------------------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

集落の人口減少が止まりません。私達の地域は山の奥ではなく、路線バスも通っているから比較的住みやすい場所であるにも関わらずです。新見市全体でも著しい減少ですが、何もせずじっとしておく訳にはいきません。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください)

<input type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input checked="" type="checkbox"/> 7. 福祉（見守り・移動支援等） <input type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input type="checkbox"/> 10. その他（1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的にご記入ください。） 例：地域の現状や課題の把握から始めたい。
--	--

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

①地元民では、自分達の地域の魅力は分かりづらいし気づかない。まずは外部の目で見てもらいたい。
 ①-2 次に、出来る出来ないはあまり考えずに「こうしたらいいのでは？」「こんなに良い所もあるので発信できなか？」等をしっかり話あった上で、行動に移す。②私達の地域には特産品はない。しかしながら、特産品にチャレンジし、元気な高齢者に作業等を手伝ってもらい、痴呆症の予防に務めるだけでなく生きがいを感じてもらえる事業に取り組みたい。そのための発想を大学生に期待します。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	新見市	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

しもぐまたに
新見市「下熊谷地区」の取組概要

地域の概要

- 人口 483 人
- 高齢化率 37.3%
- 集落数 15 集落
(R6. 1. 1)



取組の経過

新見市内中心部より県道 32 号線を東方面に向かい、市街地を抜けたら下熊谷地区で、地区内には体育館・テニスコート・プール・グラウンド等を備えた新見市民運動公園をはじめ、中国自動車道、JR 姫新線、県道 32 号線、熊谷川が通っています。昔からの集落に加え、近年は造成地に建てた新しい住宅地も点在しています。

1982 年に下熊谷地域振興会が発足し、地域の産業・教育・文化の発展を図り、住民の福祉向上に資することを目的とした活動をしてまいりましたが、2021 年 6 月に小規模多機能自治会として組織を再編し「下熊谷はぐくむ会」を設立しました。翌年度には、拠点施設の改修工事を実施し、地域の目指す将来像である「未来をはぐくむ地域のきずな」の実現に向け、愛情をもって地域活動に取り組んでいます。

推進組織

下熊谷はぐくむ会

地域の特徴

木材に関する事業所が多い（県森林連合新見支所・市森林組合・宮永製材所など）。市中心部に近く、高齢化率が低いため、活気があります。

代表的な取組

- 1 月・グラウンドにて、とんど祭を開催し、神事の後で焼き餅・ぜんざい・飲み物等を振り舞います。来場者には番号札を渡し、お楽しみ抽選会で景品をプレゼント。
- 4 月・花桃公園まつりを開催。地域外からも多くの来場者があり、「春」を満喫して貰っています。
- 8 月・お盆に、下熊谷若連中が中心となって盆踊りを開催。お菓子まき・バンド演奏・抽選会等があり、帰省者は友達と会えるのを楽しみにしています。
- 10 月・敬老会・グラウンドゴルフ大会を企画し、若い方から年配者まで参加出来る行事を運営。又、防災訓練も、この時期に実施。
- 通年・主に高齢者を対象にするものの、年齢制限を設けずに年間 6 回、いきいきサロンを実施。又、高齢者等を対象にした友愛訪問事業を、年 3 回実施しています。



令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	真庭市 水田地域 (水田むらづくりの会)	代表者	
-----	-------------------------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

少子、高齢化により、人口減少が進む地域において、地区住民が幸せを実感できる活動を展開している。そのなかで、災害の備えとして、防災訓練、研修などを毎年実施しているが、大規模災害が発生した時の避難所として、閉校となった小学校の体育館が市の指定の避難施設となっている。校舎は令和6年度に解体されるが、体育館を避難所として残すために、水田むらづくりの会が要望している。その管理維持費は、地域指定のふるさと納税の財源を確保する予定であるが、体育館を有効に活用するアイデアをこの事業により分析、検討、提案いただきたい。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください。)

<input type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input type="checkbox"/> 7. 福祉（見守り・移動支援等） <input checked="" type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input checked="" type="checkbox"/> 10. その他（1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的に記入ください。） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 廃校となった小学校体育館を避難所として維持するが、他の活用について提案願いたい </div>
---	---

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

体育館を避難所として残すために、水田むらづくりの会が要望している。その管理維持費は、地域指定のふるさと納税の財源を確保する予定であるが、体育館を地域住民や、他の地域や、大学等に有効に活用するアイデアをこの事業により分析、検討、提案いただきたい。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	真庭市	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

みずた 真庭市「水田地区」の取組概要

地域の概要

- 人口 1,148 人
- 高齢化率 43.6%
- 集落数 33 集落
(R6.1.1)



取組の経過

真庭市南部、旧北房町の中でも最東部に位置し、旧落合町に隣接している地域です。中国自動車道北房 I Cからも近く、流通施設、商業施設もありますが、周囲には田園地帯が広がっています。人口の流出や高齢化が進み、農業の後継者が不足するなど、深刻な事態となりつつあります。

地域自主組織である「水田むらづくりの会」が平成 17 年に結成され、地域住民の交流、体力づくりや伝統文化の継承そして環境整備事業など年間を通して、ふれあいや交流の機会を持ち地域活性化に努めています。

推進組織

水田むらづくりの会

地域の特徴

北房地区には、観光イベントがたくさんありますが、水田地域には目立った観光イベントもなく華やかさはないですが、昔から美味しい米どころとして栄えた地域です。

代表的な取組

○地域交流 子ども神楽の開催

子ども神楽同好会を迎え、旧水田小学校体育館において「子ども神楽」を開催しました。地域内外の参加により楽しんでいただけました。



○コスモス街道の整備

備中川の堤防沿いにコスモスを毎年植え、また国道沿いの花壇に夏冬 2 回花を植えて環境美化に寄与しています。



○三世代交流グラウンドゴルフ大会

年 2 回、三世代交流グラウンドゴルフ大会を開催し、小学生からお年寄りまで楽しい一日を過ごしています。



○広報誌の発行

年 3 回、地域内全戸に活動の様子を知らせる広報誌を発行しています。

令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	矢掛町 羽無集落	代表者	
-----	----------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

羽無集落は、高齢化率80%、人口30数人の集落である。こうした中で、住民が自助と共助の意識を持ちながら集落を維持している。特に平成30年にオープンさせた休憩施設「憩いの館」を拠点に、地域住民による田舎食堂や農業体験、キャンプ場や宿泊施設の運営等を積極的に実施している。しかし、マンパワー不足もある中で、事業メニューもマンネリ化してきており、新たなプログラムの創出が必要である。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input checked="" type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input type="checkbox"/> 7. 福祉（見守り・移動支援等） <input type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input type="checkbox"/> 10. その他（1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的に記入ください。） 例：地域の現状や課題の把握から始めたい。
---	---

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

羽無地区に高滝山という岡山100名山の一つにもなっている、トレッキングのできる山がある。これを新たな観光ルートとして整備し、地域活性化の一助にしたいと考えている。しかし、高齢化とマンパワー不足により、登山道の整備において課題が多く、観光資源として活用できていない。そこで、大学生の手腕をもって活用プランの開発をしていただき、かつ、登山ルート開発作業にも参画していただきたい。

また、高滝山の山頂には、日本古来の山岳信仰の摩崖仏や巨岩もあり、眺望が極めて素晴らしい山である。さらに、不動明王も祀られていることから、歴史や文化に関する学習の場としても活用していただきたい。こうした取り組みを通じて、地域の魅力を広く発信していただき、高滝山をより多くの人々に知っていただき、健康増進的な観光地として活用していきたい。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	矢掛町	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

はなし 矢掛町 「羽無集落」の取組概要

地域の概要

○人口	35人
○高齢化率	80.0%
○集落数	2集落
	(R6.1.1)



取組の経過

矢掛町の北部、標高200m程度の位置にある中山間地域です。地域は山に囲まれた盆地で、中央に羽無川が流れています。地域外へのアクセスは、羽無川沿いと南側の山越えの2本の町道のみであり、地域が独立した地形になっています。

羽無集落の主要な産業は農業であり、米を中心に野菜や果樹の栽培も行われています。また、集落にある吉祥寺には海棠の古木があり、春には可愛い花が咲き、境内では地域住民による「海棠まつり」が開催され、町内外から多くの観光客が訪れます。

羽無集落は、住民が自助と互助の意識を持ちながら集落を維持しており、日々の生活から「憩いの館」を拠点とする様々なイベントまで、集落の住民が協力して活動しています。そのため地域のつながりは強く、少子高齢化が深刻な状況の中で、課題解決に集落として取り組んでいます。集落全体で住民の生活を支え、地域が一体となって知恵を出し合い、観光客の誘致や他の集落や団体、大学生等と連携しながら、新たな視点で取り組んでいます。

推進組織

羽無自治会、桃源郷はなしの里（地域住民で組織する団体）

地域の特徴

平成30年3月4日にオープンさせた休憩施設「憩いの館」を拠点に、地域住民による田舎食堂や農業体験、キャンプ場や宿泊施設の運営、大学生の交流受け入れ等を積極的に実施しており、若者や外部からの訪問者を受け入れながら、集落の課題解決策を検討・実施しています。

代表的な取組

休憩施設を本格的に稼働していく中で、田舎食堂の経営では、毎週日曜日の営業を行い、季節に応じて地元食材を使用したランチや軽食を提供しています。

さらに集客のための様々な体験型イベントとして、原木椎茸菌打ち、釜炒り番茶づくり、そうめん流し、カブト虫つかみ取り、杵つき丸餅づくりをはじめ、栗拾い、さつまいも掘り、落花生掘り、自然薯掘り、じゃがいも掘り等の収穫体験、窯焼きピザづくり体験等を企画実施しています。

また、キャンプやキャンピングトレーラー、宿泊棟を活用して、星空観賞や真空管LPレコードコンサートを毎月開催する等、静かで真っ暗な夜の魅力も提供しています。



令和6年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	美咲町 倭文西地域 (倭文西まちづくり協議会)	代表者	
-----	----------------------------	-----	--

2. 集落の現在の状況・課題

倭文西地区は中山間地域にあり、人口約600人、少子高齢化が進む典型的な集落です。倭文西地内に以前ゴルフ場だった土地があり、現在、18ホールのうち9ホールは遊休地となっています。管理会社は何か地域のことで使えるなら喜んで提供したいと考えられています。

3. 大学からの企画・立案を受けたい分野(特に希望するものを3つまで選択してください)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 観光・情報発信 <input type="checkbox"/> 2. 地域産品の開発・PR <input type="checkbox"/> 3. 農林水産・鳥獣害対策 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 交流人口・関係人口の拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 空き家対策 <input type="checkbox"/> 6. 教育・文化活動 <input type="checkbox"/> 7. 福祉（見守り・移動支援等） <input type="checkbox"/> 8. 防災 <input type="checkbox"/> 9. ICT・デジタル化	<input type="checkbox"/> 10. その他（1～9以外の分野を希望する場合は下記欄に具体的に記入してください。） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 例：地域の現状や課題の把握から始めたい。 </div>
--	---

4. 3で回答した分野について大学にどのように関わってほしいか記入してください。

旧ゴルフ場には、広大な土地と数十棟の本格的なログハウスがあり、周囲に人家などはありません。

例として、芸術村、キャンプサイト、アウトドア基地、オフロード公園、乗馬クラブなど考えられますが、大学生の柔軟な発想で、その土地とログハウスの使い道の提案をお願いしたいです。自由な発想をお待ちしています。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	美咲町	所属・役職・氏名	
電話番号(直通)		E-mail	

しとりにし 美咲町 「倭文西地域」の取組概要

地域の概要

- 人口 660人
- 高齢化率 51.5%
- 集落数 48集落
(R6.1.1)



取組の経過

標高 200~500m の山間丘陵地域にあり、農地は山間・谷間を利用した棚田、急傾斜地の畑が大半です。まきばの館（岡山県総合畜産センター）が観光名所です。

道路の草刈り等これまで集落内で行ってきた様々な活動を単独の集落で続けていくことが困難になってきており、平成 20 年度より、旧村範囲というこれまでの集落単位よりも広域な区域での地域運営組織を整備し、住民へのアンケート調査や課題の解決策の検討を重ね、集落機能再編・強化のための「実施計画書」を策定しました。さらに、令和元年度には、前回のアンケートから 10 年が経過したこともあり、改めて住民全員アンケートを実施し、新しい「地域みらい計画書」の作成を行いました。現在「新・地域みらい計画書」の指針に沿って地域づくり、環境づくり、産業興しに計画的に取り組み、「元気な倭文西」を目指していきます。

推進組織

倭文西まちづくり協議会

地域の特徴

旧村(昭和の合併前)を単位とした広域的な活動組織で、住民全員アンケートを基に地域の課題を掘り起こし、地域みらい計画を作成して、地域の課題解決に向けた取り組みを行っています。

代表的な取組

○どんとこい収穫祭

地域内の結束と地域外に向け本地域をPRするとともに、都市住民との交流のため例年開催しています。イベントを通して、地域内外の輪を広げていき、地域活性化を目指していきたいと考えています。



○地域住民全員アンケート

地域住民全員アンケートによる住民ニーズの発掘と地域課題の解決に向けた「地域みらい計画書」を作成し、計画的に地域の課題解決に向けた取り組みを行っています。



【課題解決への取り組み例】

- ・黄色い旗による見守り活動
- ・地域の身近な話題を提供する「ふれあい倭文西新聞」
- ・空き家の利活用ワーク
- ・地域の味を守っていこう「倭文西レシピ集」の作成